

科目名（英文表記）	ビジネスプランニング I（Business Planning I）		
科目区分	実践科目	単位数	2 単位
担当教員名	泉 貴嗣・藤原健祐・（非） 井馬智行・（非）石河統将・ （非）幾世橋歩	ナンバリング	MBA_P_BP 5411
研究室番号	泉（420） 藤原（418）	研究室電話番号	泉（27-5490） 藤原（27-5492）
Eメール・アドレス	泉（c-cat22@res.otaru-uc.ac.jp） 藤原（k-fujiwara@res.otaru-uc.ac.jp）		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
<p>授業の目的：</p> <p>本授業では、基本科目や基礎科目で学習した多様な知識や分析・デザインスキルを前提として、次の二点を到達目標として置いています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ビジネスの基礎的な単位であるスモールビジネスをテーマとして、プランニングに有益な各種の分析フレームワークやスキルを、ビジネスプラン策定の場で「合理的・整合的に用いる」センスと実践的な能力を身につけること。 ② 実現可能性が高く、他者に対する強い説得力を有するプランを策定し仕上げるための「練り上げ／練りこみ」プロセス（プランニングのための分析・検討・立案をくり返すことによるプランの品質向上のプロセス）の必要性を理解し習熟すること。 ③ ビジネスプランを実行するにあたって必要な機会やリソースを獲得するために、ステークホルダーに応じた資料を作成できるようになること。 <p>授業では、これら3点を達成するために、一定のテーマに沿って、“ターゲティング”や“顧客に提供する価値”“価値の提供の仕方”など一連のビジネスプロセスを盛り込んだプランニングをグループで取り組みます。</p> <p>具体的には、皆さんが着想したビジネスアイデアを基に、ビジネスコンセプトの構築、業界／競合や市場／顧客に関わる認識、当該事業を成功に導くための戦略構築や将来的な成長を展望したフェーズ計画を構想し、それらを「プレゼンテーション資料」および「事業計画書」として取りまとめます。</p> <p>この授業を通して身につけてもらいたい主な分析能力と創発的能力・センスは、“ビジネスアイデア／ビジネスコンセプトの想定”“業界構造分析”“市場分析・ターゲティング”“価値連鎖分析”“SWOT分析”“戦略構築”“ビジネスフローの設計”“財務予測”などです。</p>			
<p>使用教材：</p> <p>テキスト：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング 改訂版』同文館出版, 2012年</p> <p>参考文献：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング手法』同文館出版, 2010年（現在品切れにつきサテライトの書架を利用のこと。）</p> <p>上記以外の参考文献ならびに授業時に使用する各種資料等については、随時、manaba 上にアップロードします。</p>			

成績評価の方法：

成績評価の評点配分については、以下の通りです。

出席点：0% ※ただし履修上の注意事項⑤参照

【個人ごとの評価】

授業への参加・貢献度（モジュール1・2のディスカッサント講評、それぞれ5%）：10%

【グループごとの評価】

モジュール1・2の事後課題（それぞれ順に15%+15%+20%）：50%

モジュール3の後の事業計画書の最終版：40%

評価に不服のある場合には、不服申立書を以て教務委員長に申し出てください。

履修上の注意事項：

- ① 本授業は3モジュール(15時限)構成です。各モジュールの開催時刻は通常9:00-18:00の間となります。感染症蔓延等の特別な事情がない限り、ハイフレックス講義等はありません。
- ② 本授業はワークの比重が極めて高い科目です。前項のテキストは読んでいるものとして授業を進めます。
- ③ ビジネスのダイナミクスのため、テキストでフォローできない部分は適時授業中にフォローします。
- ④ 授業は基本的に、本シラバスの記載内容に即して行いますが、変更の必要が生じた場合や別途の指示、事前・事後課題の詳細等につきましては、manaba上に掲載します。
- ⑤ 成績評価上、通算で5時限を超えて欠席すると自動的に不可(単位不認定)となるので注意してください。
- ⑥ 出張等のやむを得ない用務で欠席する方は、事前にその旨をmanabaにて申告してください。なお、欠席した場合、グループメンバーの情報に基づき、事前または事後課題において、グループから任された具体的な役割を担当することとします。
- ⑦ 上記欠席者が生じたグループは欠席者に対して、グループワークの経過や任せる役割に必要な情報を提供してください。
- ⑧ 本授業では、履修者相互の気づき・啓発を目的として「ディスカッサント (Discussant: 討論者)」制度を導入します。すなわち、各グループに対しては、予め複数のディスカッサント (他のグループに属する履修者) を設定し、当該グループのプレゼンテーションおよび作成資料に対するコメントを義務付けます。なお、提出された「ディスカッサント講評」については前項の「成績評価の方法」の【個人ごとの評価】として評価し、個人別の成績に反映します。
- ⑨ 本授業では、グループワークにおけるフリーライダー(グループにおいて議事整理や情報提供、プランニングに関する調査、資料作成等の貢献的学習を果たすことなく、履修に伴う当然の負荷を潜脱して成績あるいは学位を得ようとする者)を抑止するため、ディスカッションにおいて教員が回答者を指名したうえで、質問する場合があります。なお、フリーライダーの傾向が顕著であると、具体的な証拠に基づいて複数の教員が認める場合は、本授業に関する理解力または応用力を有していないものとして、当該受講者の評価を「不可」とする場合があります。
- ⑩ 本授業では、上記同様の目的から、各モジュールでグループ内におけるメンバーの役割を設定し、その役割について報告・評価してもらいます。なお、報告・評価方法は別に示します。
- ⑪ 本授業のグループワーク活動の一環として、学外の方(例えば、OBSのOBやOG等)にインタビューなどを依頼する場合には、社会人としてのビジネスマナーを守り、決して先方に迷惑をかけたたりすることのないように充分配慮してください。このような訪問を行う場合、自分の勤める会社の名刺ではなく、OBSの大学院生としての名刺を用意されることをお勧めします。